

# 園 評 価 の 結 果 に つ い て

学校法人 北邦学園

東橋いちい認定こども園

平成30年度に実施した東橋いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

## 1 本園の教育保育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎考え工夫する子
- ◎明るくたくましい子

### 【各学年のねらい(年間)】

- 0歳児 保育教諭と楽しく触れ合いながら、安心した気持ちで過ごす
- 1歳児 身近なものに興味を持ち自分でしようしたり、保育教諭の仲立ちによって友達と遊ぶ楽しさを感じたりする
- 2歳児 様々なものに関心をもち進んで取り組んだり、友達や保育教諭と遊ぶことを楽しんだりする
- 3歳児 様々な遊びに興味をもち、色々な友達に進んで関わったり自分なりに気持ちを表現したりしながら園生活を楽しむ
- 4歳児 色々な遊びや活動に興味を持ち意欲的に取り組んだり、自分の気持ちを伝えながらクラスの友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じたりする
- 5歳児 様々な活動に意欲的に取り組む中で、自分なりに考え目標や見通しを持って行動したり、色々な友達と気持ちや考えを伝え合い協力しながら遊びを進めたりすることを楽しむ

自己評価	評価内容
「A」	<ul style="list-style-type: none"><li>・どの年齢も、年度末現在の子どもの姿と照らし合わせてみると、概ね目指してきた成長段階に達することができたと考えている。</li><li>・3歳児、4歳児の「友達とのかかわり」という面においては、まだ個人差が見られる状況であることも考慮してねらいの立案をすべきだったため、次年度の立案の際に、重点的に考えたい。</li></ul>

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

## 2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

課 題	具体的な取組み方法
乳幼児理解を深め、乳児と幼児の積極的な交流の実施	<p>&lt;昨年度は、取組み方などが見出せた頃に、年度が終わってしまったため、その反省や評価点などを活かし、さらに子どもたちにとって良い関わりが生まれるようにする。&gt;</p> <p>&lt;これらの活動を通して、保育教諭同士が各年齢の育ちや状況などを細かく学び合う機会となるようにする。&gt;</p> <p>☆身近な園生活の中で、交流の機会をもつ</p> <p>*昨年度からの取組みを活かし、1学期末から週に一度は一緒に体操などを行なう。</p> <p>*2学期から基本的なペアの学年を決め、定期的に交流をする。学年部会で、翌月の交流について検討し実行する。</p> <p>(年度当初から実施→1歳児が5歳児の朝の会に参加。5歳児のヨサコイ見学など)</p> <p>*今後の指導計画に反映させられるよう、取組み内容やその際の配慮点などを具体的に残す。</p>
【自己評価】 「B」	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に比べると、交流の機会（わくわくタイム・誕生会前後のエスコート・公園への散歩・自由遊びや朝の会での交流 等）は増え、子どもたちや先生方の意識は、自然にもてるようになってきたと言える。</li> <li>・しかし、まだ「もっと自然にかかわりをもつ」「指導計画に当たり前のよう交流の機会が盛り込まれる」までには、到達しておらず、今後も努力すべきだと感じている。</li> </ul>
保育環境整備や環境構成の創意工夫	<p>&lt;昨年度の取組み（園内研究）により、各保育教諭の意識が高まったことから、それを活かしてさらに良い園庭の環境創りをする。&gt;</p> <p>☆今年度も引き続き、園庭での遊びに焦点をあてた園内研究を行ない、園全体で環境を考える。</p> <p>*築山のテーブルセットの補修を計画中。</p> <p>*テーブルセット横の、崩れた斜面の補修も計画中。</p> <p>*遊びの種類を増やすことで、必要な道具も必要に応じて増やす予定。</p> <p>&lt;保育室内の中での小さな工夫から、園全体の環境整備も含め、子どもの遊びが広がる意識をもって取り組む。&gt;</p> <p>☆保育室内での遊びの小さな工夫（廃材遊び）がみられている。それを保育教諭同士が気付けるよう、互いの工夫などを伝え合える環境を創る。</p> <p>*自由遊びをじっくり楽しめるような時間配分の工夫や見直し。</p> <p>*自由遊びでの各クラスの行き来を増やし、子ども同士の関わりも広がるようにする。また、保育教諭同士も様々なクラスの工夫に目を向けられるよう交流を促す。</p> <p>&lt;絵本についても、昨年度から継続してよい環境を創る。&gt;</p> <p>☆絵本に親しめる環境創りをする。</p> <p>*0歳児の月刊絵本の取組み。</p> <p>*0～2歳児クラスの絵本の貸出し。</p> <p>*1歳児クラスの保護者からもお薦め絵本を借りる取組み。</p> <p>*絵本の部屋の環境整備。</p> <p>*絵本についての「母親学級」の実施。</p>

<p>【自己評価】 「B」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「絵本」についての園の取組みとして、意識して始めた継続的な取り組みや、行事的な取り組みの実施など、昨年よりも効果的な取り組みができたと感じている。また子どもたちの生活にとっても、絵本に親しみ、より好きになっている様子が見られ良かった。</li> <li>・「園庭の環境」「園内の環境」については、園内のままごとコーナーの充実など、具体的な取り組みができた部分もあるが、園内外を総合的に見ると努力が足りなかった部分が多かった。次年度に向け、何に重点をおくことが必要かを見極めたい。</li> </ul>
<p>保護者理解と連携の強化</p>	<p>&lt;昨年度も努力してきた部分ではあるが、新たな課題が見えたり、対応を考えなければならぬ面が出てきているため、引き続き努力する&gt;</p> <p>☆昨年度までの充実と今年度からの新たな取組みを行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*保護者参加行事の月毎のバランスを考慮し、年間行事予定を立てる。</li> <li>*2号園児保育時間（ぶどう組）担任との「個人懇談会」の実施。</li> <li>*保護者アンケート実施。（行事の他、保育や園運営全般についての予定）</li> <li>*HPブログの定期的な更新。</li> <li>*保護者との積極的な連携。（送迎時や電話での会話を充実させる）</li> </ul>
<p>【自己評価】 「B」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度取組みたいこととして、具体策を上げた部分は、ほぼ実行できたと捉えている。実行してみて、効果が見られたことや改めて課題が出てきたことが挙げられるが、実行したことにより見えたものばかりだったため、次年度に更なる課題として繋げていきたい。</li> </ul>
<p>保育教諭の研修への積極的な参加</p>	<p>&lt;昨年度は、参加必須の研修や、園として参加したほうが良い研修を受けるという受身な参加姿勢がほとんどだったため、各保育教諭自身がより意識して、自分のスキルアップのために研修を積極的に受けられるような体制を整える。&gt;</p> <p>☆年間研修計画を立てる。（保育教諭全員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*幼児教育センター、札私幼、私保連主催の年間計画等を参照し、自ら参加したい研修を選び、一覧表にする。年間の計画以外にも、随時参加したい研修があれば参加し、年間の表に書き込んでいく。</li> <li>☆研修報告の充実。（保育教諭全員）</li> <li>*報告書を簡素化し、研修に出る際に持参できるようにする。研修後に振り返って記入する形式ではなく、研修中に学びを記入する形式にする。研修後すぐに報告会や回覧などを行い、参加していない保育教諭と学びの共有をよりしやすくする。</li> </ul>
<p>【自己評価】 「A」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、各保育教諭ごとの「年間研修計画」を立てたことにより、それぞれの研修参加に対する意識が高まり、見通しをもって各研修に参加することができた。特に、勤務時間の関係でなかなか研修に参加できなかったパート保育教諭も、日中の研修を選んで参加することができ、非常に良かったと感じている。次年度からも、研修を受けやすい環境づくりをしていきたい。</li> <li>・研修報告の書式を簡素化したことで提出が早くなり、その分職員への報告も早くできるようになった。報告書の作成も、各々の保育教諭が率先して行うことができ、大変良かった。</li> </ul>

### 3 評価項目の達成及び取組み状況について（※各個人の自己評価チェックリストによる）

（A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。）

評価項目	達成及び取組み状況
「教育保育の計画性」について 自己評価 「A」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園で作成した「教育保育課程・指導計画」に基づき、子どもの成長段階と照らし合わせながら、計画的に保育を実施することができた。</li> <li>・翌月の保育計画や子どもへの援助の仕方などを確認する「学年部会」（幼児クラスは月に1回、乳児クラスは月に2回）も定期的に行われたことにより見通しをもち、計画の立案ができた。</li> </ul>
「教育保育のあり方、幼児への対応」について 自己評価 「A」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、担任だけではなくクラス担当者全員で、子どもの成長について考える機会を増やした。それにより、それぞれの保育教諭の子どもの成長や課題の捉えを出し合い確認し合うことができ、スキルアップができた。</li> <li>・今後も、子ども一人ひとりへの丁寧な対応を様々な角度から考えていきたい。</li> </ul>
「保育者としての資質と能力」について 自己評価 「A」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育教諭同士の話し合いを密にしたことにより、互いに刺激を受け、それぞれの資質や能力の向上に繋がった。</li> <li>・また、自ら研修に参加する機会が増えたことにより、自分の学びを深めたい広げたいという意識が向上した。</li> </ul>
「保護者への対応」について 自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの保護者との関わりを大切に行うことができた。</li> <li>・反面、丁寧に細かく行っているつもりでも、保護者の思いに寄り添えていなかったり、考えが浅かったりと、まだ努力を続けなければならない。</li> </ul>
「地域の自然や社会との関わり」について 自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は、9月の地震により地域のことを再確認しなくてはならないことに、改めて気付かされた。そのことで園外マップを新しく作成し、散歩のルート上での安全確認ができるようにした。</li> <li>・上記の作業を行ってみて、まだまだ理解が足りない部分も見えたため、今後に繋げたい。</li> </ul>
「研修と研究」について 自己評価 「A」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な研修に参加したことにより、大変学びが多くなった。</li> <li>・他の保育教諭が参加した「研修報告」により、学びの共有ができたと感じた。</li> <li>・園内研究については、身近な研究主題だったからこそ、もう少し主体的に取り組むことができたより良かったと感じた。</li> </ul>

#### 4 今後取り組むべき課題

課 題	課題設定の理由
① 乳幼児理解を深め、乳児と幼児の積極的な交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流により、子どもたち同士のかかわりが多くなることで、互いを思いやる気持ちや、年少者からは年長者への憧れの想い、年長者からは年少者を慈しむ想いを自然にもてるようにしたい。それが、子どもたちの心の成長に繋がるようにしたいと考えている。</li> <li>・また、昨年から引き続き、保育教諭同士が各年齢の育ちや状況などを細かく学び合う機会となるようにしたい。</li> </ul>
② 保育環境整備や環境構成の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの主体性を育む「遊び」を存分にできる環境として、何が必要かを「園内」「園外」共に、引き続き考えていきたい。</li> <li>・保護者アンケートからも、環境の見直しや改善の必要性が感じられたため、今一度、全職員で考えていきたい。</li> </ul>
③ 保護者理解と連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートで、保護者理解やかかわりの足りなさを改善点として挙げていただいたことを、一つひとつ検討し理解を深めたいと考えている。</li> <li>・連携の一つとして、保護者への一斉連絡などの方法を改善することで準備をしているため、それが円滑に利用できるよう努める。</li> <li>・園からの配付物（お便り等）の改善に取り組んできたが、まだ必要な面であるため、さらに改善を重ね保護者からの理解を高めたい。</li> </ul>
④ 保育教諭の主体性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、各年齢の部会の充実や自発的な研修の参加、また、自己目標の設定をそれぞれが行ったことにより、保育教諭や職員の主体的な姿勢が向上しつつあると感じられたため、今後の課題として定めることで、それぞれが子どもと共に生き生きと主体的に勤務できるよう努めたい。</li> </ul>